第25回日本骨粗鬆症学会

The 25th Annual Meeting of Japan Osteoporosis Society

ランチョンセミナー 6

日時

2023年9月30日（土） 12：10～13：10

会場

第3会場（名古屋国際会議場 4号館1階 白鳥ホール南）

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

二次骨折予防の取り組み：現状と課題

座長

萩野　浩 先生

独立行政法人労働者健康安全機構 山陰労災病院 副院長

演者

酒井 昭典 先生

産業医科大学 整形外科学講座 教授

日本整形外科学会教育研修単位の1単位が取得できます。（受講料：1講演1,000 円）

・専門医資格継続単位

■必須分野：4.代謝性骨疾患（骨粗鬆症を含む）

※お申込み方法

名古屋国際会議場 1 Fアトリウムの単位受付にて、受講申込書に必要事項をご記入のうえ、受講料を添えてお申込みください。

ランチョンセミナーチケットを各セミナー開催日当日に配布し、お持ちの方から優先的にご入場いただきます。
チケットの数には限りがありますので予めご了承ください。
配布時間：9月30日（土） 7：30～11：50　配布場所：名古屋国際会議場 1号館1F アトリウム
※チケットが余り、定員に余裕がある場合は、チケットをお持ちでない方もご入場いただけます。
※ランチョンセミナー開始と同時にチケットは無効となります。

共 催：第25回日本骨粗鬆症学会／東和薬品株式会社／中外製薬株式会社

二次骨折予防の取り組み：現状と課題

産業医科大学 整形外科学講座 教授
酒井 昭典

2022年4月の診療報酬改定で、大腿骨近位部骨折患者に対する「二次性骨折予防継続管理料」が新設された。この改定は、大腿骨近位部骨折後の再骨折予防への取り組みや骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）の推進を後押しするものである。

我々は、北九州西部地区の6病院において、地域から骨粗鬆症性骨折を減らすための取り組み（STOP-Fx）を2016年から行なってきた。骨折時に登録した骨粗鬆症性骨折女性患者は2年間で805名であった。登録時に骨粗鬆症の薬物治療を受けていた者は286名（35.5%）で、そのうちビスホスホネート製剤が135名（47.2%）で最も多かった。登録後2年以内に二次骨折を起こした患者は445名中28名（6.3%）で、そのうち21名（75.0%）が1年以内であった。登録した骨折と同じ骨折を対側や別部位で起こす傾向がみられた。二次骨折発生の有無と登録時のデータを多重ロジスティック回帰分析した結果、二次骨折発生有りに関連する有意な因子は、TRACP-5bの高値と腰椎骨密度の低値であった。登録後2年間定期的に追跡可能であった445名と追跡から脱落した360名について分析した結果、追跡からの脱落は、高齢、大腿骨頚部骨密度の低値、病院の形態（ケアミックス病院よりも急性期だけの病院）と有意な関連があった。

このような現状分析からみえてきた課題は、骨折型にかかわらず血清25（OH）D濃度が20ng/ml未満の患者が80%いること、ビスホスホネート製剤を服薬しているにもかかわらず骨密度が上昇していない患者がいること、二次骨折を起こした患者のうちの75.0%は1年以内に生じていること、高齢者や低骨密度の者では追跡率が低いこと、急性期病院はケアミックス病院と比べて追跡率が低いこと、などであった。

ビタミンD不足は骨粗鬆症とともに易転倒性や運動機能低下と関連がある。これについては、ビスホスホネート製剤にエルデカルシトールを併用投与することにより骨密度の上昇や運動機能の改善が期待できる。腎機能低下患者へエルデカルシトールを投与する場合には高カルシウム血症に注意する。骨折後早期から適切な薬剤で治療介入し、二次骨折のリスク低減に努める。追跡率の向上には、急性期病院から回復期病院、そして骨粗鬆症の継続治療を行うクリニックへの連携が必要不可欠で、OLS体制の確立が欠かせない。